

「『治癒と妻の喜寿』を祝って」

2019年06月01日

私の「悪性リンパ腫」は、5月28日に主治医から「治癒しました」の言葉をいただいた。昨年の8月に、定期検診で発見され、急遽入院を命じられた。9ヶ月間、長く、苦しい闘病の時を過ごした。主治医は念には念を入れる方で、私はPETの検査で問題がなければ、「寛解」をいただけたらと思っていたが、その後も、血液検査は毎回、大腸の内視鏡検査を2回、そして、CT検査をし、ようやく「治癒」と言われた。これから、定期的に検診を受け、再発がなければ、5年後くらいに「完治」となるらしい。生涯、病気と向き合い闘うことになる。医師団の熱心な治療と看護師たちの優しい心配りを受けた。そして、妻の看病と皆さんの篤い祈りをいただいた。ただ、感謝である。

病気も神からの恵みである。病気は機能障害と過労を知らせ、治療、休養を取るようにブレーキをかけてくれる。私は、食道がん、胃がん、今回の悪性リンパ腫と三つのがんを乗り越えることができた。病になることは避けられず、生きている証拠とも言えよう。病は耐え難い苦しみもあるが、大きな益ともなる。今回の悪性リンパ腫に冒されて、抗がん剤治療と放射線治療を受けたことは貴重な経験で、生と死をリアルに考える時ともなった。幸い、治癒となり、神は私の命を長らえさせてくださった。これから、年を重ねると、体は必然的に弱っていくが、与えられた命を喜び、弱っていく体で、意味のある日々を生きていきたいと思っている。

「治癒」の診断をいただいた次の5月29日が妻の喜寿の誕生日であった。私たち夫婦も後期高齢者になってから、2、3年が経つ。生かされていることは幸いである。山梨県の北杜市で、晴耕雨読の生活をしている同級生の寺島昭二牧師が長野県の横谷温泉に誘ってくれた。5月は、宿泊費が半額になるサービス月間ということで、これ幸いと、図らずも、私の治癒と妻の喜寿を祝う一泊旅行となった。中央自動車道の長坂インターを降りたスーパーの駐車場で、寺島夫妻と久しぶりに再会した。寺島牧師は白い髭を蓄え、奥さんは純真そのもので、妻は「北杜の山爺様、天女様」と呼んでメールのやり取りをしている。山爺様に色々な所を案内してもらった。

彼が最後の2年ほど務めた富士見高原教会を訪ねた。驚くほど広い敷地を持つ教会であった。別荘として持っていた人が献げてくれ、そこに、教会を建てたそうである。近所で星野富弘氏の「花の詩画展」があった。事故で怪我をし、首から下は動けないので、口に絵筆をくわえ、精密な画と素晴らしい詩を書いている。優しい言葉に心を打たれる。東山魁夷の白い馬を描いた『緑響く』の舞台となった御斜鹿池を観に行った。新緑の木々を池が写し取り、まさに「緑響く」であった。夜は、蓼科の溪谷沿いの一番奥まった所にある横谷温泉の和風旅館に泊まった。赤い色の温泉に3回入り、彩りのある食事、コンサートなど、楽しむことができた。翌日は、イングリッシュガーデンの「バラクラ」に行った。英国風は人工的でなく、自然そのものを生かす手法だそうで、バラはまだ咲いてなかったが、諸々の花木を見ることができた。それから、諏訪に行き、諏訪の浮城と呼ばれる高島城を仰ぎ見た。北澤美術館でエミール・ガレのガラス工芸の見事さに感嘆した。信州は新緑の季節で緑豊かな風景を満喫した。帰途は、左に「八ヶ岳」右に「甲斐駒ヶ岳」前方に「富士山」を見ながら帰ってきた。病気上がりの私には何よりの気晴らし休養で、病気の時の苦労はすっかり忘れて、二日間を楽しんだ。